ひょうご人権ジャーナル

きずな KIZUNA

7 2021年 令和3年

特集 多文化共生

ちがいを認め合い、
共に進もう

INDEX

2 「オリンピックと多文化共生」
にしゃんたさん（タレント・羽衣国際大学　教授）

3 「オリンピック開会式と共生へのメッセージ」
飯笹　佐代子さん（青山学院大学　教授）

4 「スポーツから学ぶ多文化共生社会の可能性」
平井　肇さん（放送大学滋賀学習センター長）

5 「ホストタウンとしてフランス柔道選手団をお迎えします」
姫路市

6 「多様だから楽しい。得意を生かして、支えあうコミュニティ」
星野　恭子さん（フリーライター）

7 ふれあいサロン

8 情報ぷらざ

ひろげよう こころのネットワーク

兵庫県・（公財）兵庫県人権啓発協会
兵庫県マスコット　はばタン

まもなく開催される東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では、国境を越えた交流が期待されます。この大会を契機に言語、宗教、生活文化などの違いを理解し、互いを尊重し合える多文化共生社会をさらに進展させていくことが重要です。

本号では、文化等の多様性を受け入れ、互いに認め、関わり合う多文化共生社会の実現について考えてみましょう。

特集 多文化共生

オリンピックと多文化共生

タレント・羽衣国際大学　教授
にしゃんた さん

プロフィール

セイロン（現スリランカ）生まれ。高校生時代に来日、第二の人生がスタート。経済学博士号や日本国籍を取得。現在は大学で教壇に立ち、テレビ・ラジオへの出演、執筆などのほか各地でダイバーシティスピーカー（多様性の語り部）としても活躍している。著書に「留学生が愛した国・日本」など。

「多様性の受容」を「平和」と言い換えることが出来ます。多様性の受容がある先には平和があり、平和がある先には多様性の受容があります。平和の対義語は戦争ですが、多様性の否定がある先には戦争があり、戦争がある先には多様性の否定があります。

多様性の包摂社会

「平和の祭典」と言われるオリンピックは、戦争をスポーツに置き換えたという原点はもちろんのこと、「オリンピック休戦」に見られるように争いを止めた歴史もあります。オリンピックと対になって発展したパラリンピックは、元々は負傷兵士のリハビリテーションや社会復帰の一環として始められました。それだけではありません。オリンピックは回を重ねるごとに多様性を高め、包摂社会の重要性を示し続けています。

近代オリンピックが始まった1896年アテネ大会に参加した国の数はわずか14で、参加者は241人、全員男性で女性はいませんでした。1964年の東京オリンピックの参加国・地域は93で、参加者は5151人、女性の割合は13％の678人でした。直近の2016年リオデジャネイロオリンピックでは、参加国・地域は205で、参加者数は11303人、女性比率は45％と過去最高を記録し、また、リオ大会で自身がLGBTであると公表した選手が50人で、2008年の北京オリンピックの10人、2012年ロンドン25人をはるかに上回りました。同大会では、大会初となる戦火が続いたコソボからの選手団や難民チームも参加し、冬季オリンピックもパラリンピックも同様に開催回数を重ねるごとに「多様性」の包摂が進んでいます。

違いを楽しんで力に

日本での2度目となる今回の夏大会がコロナ禍と重なり、オリンピックと多様性について語られることもなく、現状では今大会で多様性包摂の新記録が生まれるかわかりません。ただ多様性包摂のアップデートをオリンピック大会にだけ委ねて私たちはただ単に応援に回っているだけで良いのでしょうか。

私たちは多文化、つまり違いに満ちた、違いしかない中に生きています。違いを楽しんで力に変えることは誰にも出来るはずです。今までの自分の記録を塗り替え、自分に金メダルをかけてあげましょう。

オリンピック開会式と共生へのメッセージ

青山学院大学　総合文化政策学部　教授　飯笹（いいざさ）　佐代子（さよこ）　さん

五輪の開会式では、聖火の点灯や選手団の入場行進などに加えて、「芸術プログラム」の実施が国際オリンピック委員会により定められています。過去の大会では、開催地の文化の魅力や歴史を紹介しながら、共生、世界平和といったオリンピニズムの精神を発信するために趣向を凝らした演出がなされてきました。

リオデジャネイロ大会の開会式（2016年）

前回の開催国ブラジルは、先住民、大航海時代に入植したポルトガル人、奴隷としてつれてこられたアフリカ人らが混血を重ね、日本を含む世界各地からの移民も加わって多人種混淆社会を形成してきました。こうした歴史物語が、映画監督フェルナンド・メイレレスの演出によって披露されました。

アマゾンの熱帯雨林に住む先住民のパフォーマンス、続いてポルトガル人が帆船に乗って到来し、両者が遭遇。そして、農場で働く黒人奴隷と、中東からの商人らしき移民が行進します。目を引いたのは、奴隷に扮した人たちが逃亡を防ぐための「足かせ」を付けており、不名誉な史実がありのままに表現されていたことでした。

感慨深かったのは、日の丸をデザインした衣装を着た日系ブラジル人女性たちの登場と、美しい舞いのシーン。ちょうど71年前の広島原爆投下の時間帯に合わせたもので、世界平和への願い、そして次の開催国、日本に対する配慮も感じさせます。さらに、人間が常に敵対や紛争を繰り広げているイメージが演出され、「争いを止めよう」との女性シンガーの呼びかけによって、多彩な衣装の1500人のダンサーたちが融和を象徴する華麗な踊りを披露。人種、民族を越えた共生を誰にでもわかりやすい形で訴えかけ、多くの人びとを魅了しました。

東京大会からのメッセージとは

さて、東京大会の開・閉会式のコンセプトには、「復興」とともに「共生」が重視されています。オリンピック・スタジアムのある新宿区は、新成人の半数近くを外国出身者が占めるほどの多文化都市。国立代々木競技場のある渋谷区は、LGBTの人びとに対して日本では先進的な取り組みを実施しています。2年前にようやく、日本の法律に初めてアイヌの人々が「先住民族」と明記されました。式典の簡素化案もありますが、東京大会が、日本社会の多様性を私たちがあらためて自覚し、共生への決意を国内と世界に発信する機会となることを願っています。

プロフィール

専門は多文化社会論。多様な文化や宗教、価値観が平和に共存する社会を実現していくための考え方や政策について、多くの移民、難民を受け入れてきたカナダやオーストラリアなどの事例から研究。多文化共生の推進に文化芸術が果たす役割にも注目。主著に『シティズンシップと多文化国家』日本経済評論社（第23回大平正芳賞受賞）等。

スポーツから学ぶ多文化共生社会の可能性

放送大学　特任教授　滋賀学習センター長　平井（ひらい） 肇（はじめ） さん

ラグビー・ワールドカップ2019

一昨年、ラグビーのワールドカップが日本で開催されました。日本代表チームは世界の強豪を次々と破り、準々決勝まで進みました。フィールド上の熱戦だけでなく、観客席の盛り上がりや海外から多くのファンが訪れたことなどもあって、ラグビーへの関心も一気に高まったようです。

多様な人たちからなる代表チーム

この日本代表チームは、ある意味、かなり異質な集団でした。31人のメンバーの中で、日本で生まれ育った人が16名（52％）、海外出身で日本国籍を取得した人が8人（25％）、日本国籍を持たない人が7人（23％）でした。出身国はニュージーランド、オーストラリア、サモア、トンガ、フィジー、南アフリカ、韓国などさまざまです。

ラグビーの世界では、選手が国境を越えて移動し、移動先で代表チームに選ばれることは珍しいことではありません。代表チームのメンバーは、その国のラグビー協会に所属して一定期間プレイしていれば、国籍は問わないという考えがありました。このスポーツには、「そうか君もラグビーが好きか。じゃあ一緒に楽しもう」といったノリで、異質な人も気軽に受け入れる土壌があったのです。その伝統は、今でも続いています。

今回の日本代表も、文化的背景が異なる人たちが同じユニフォームを着て、勝利というひとつの目標に向かって力を合わせて戦いました。このチームは、これまでオリンピックなどで日本代表を応援してきた私たちに、その点でも新鮮な驚きと感動を与えてくれたのではないでしょうか。新しいスタイルの日本代表に、日本の未来を重ね合わせた人も少なくないはずです。

敵、味方に関係なく敬意を払う

ラグビーに限らずスポーツでは、必ず「相手」が必要です。相手が自然や動物などの場合もありますが、ほとんどの場合、相手は人です。相手には敵、競い合う人という意味の他に、一緒に物事をするもう一方の人という意味もあります。つまり、競いながらも協力・協調もしないとスポーツは成り立たないのです。敵味方関係なく、文化や社会的背景、置かれている立場の異なる人にも敬意を払い感動を共有できるスポーツには、私たちの目指す多文化共生社会に通じることが多々あると感じています。

プロフィール

鳥取県生まれ。慶應義塾大学卒。一橋大学大学院満期退学。滋賀大学教育学部・講師、准教授、教授を経て、現在は名誉教授。2020年より現職。専門はスポーツ社会学・スポーツ文化論。スポーツのグローバル化、特にスポーツの伝播と普及、変容の歴史的経緯や現代のエリート選手の国境を越えた移動に関心がある。

ホストタウンとして フランス柔道選手団をお迎えします

姫路市

姫路市が取り組んでいるフランスのホストタウンとしての活動をご紹介します。

Q ホストタウンになった経緯

A 兵庫県はフランスと友好提携を結び、全国の自治体で唯一、パリに事務所を設置し、様々な分野で交流を進めています。姫路市でも姫路城とロワーズ県にあるシャンティイ城と姉妹城提携する等、相互交流事業などを活発に行っています。

「柔道の父」と呼ばれている「嘉納治五郎」が兵庫県出身であることや、パリで日仏柔道倶楽部を創立し、「フランス柔道の父」と呼ばれフランス柔道の礎を築いた、「川石酒造之助」が姫路市出身であることなど、フランス柔道にとって兵庫県及び姫路市は非常にゆかりがある場所です。そのような経緯から、兵庫県・姫路市の共同でホストタウン事業登録を行いました。

姫路獨協大学柔道場にて

市民の方からはフランス柔道と姫路に関係があったことに驚きの声が多くありました。

Q フランス代表との交流

A 姫路獨協大学で柔道を通じた市民交流の実施やフランス柔道連盟副会長やサポーターを姫路にお招きし、姫路日仏協会等との市民交流を行ってきました。また、昨年6月には、フランスを舞台とした物語である「レ・ミゼラブル」の曲の1つである「民衆の歌」を市民や志を共にしてくださる方々と歌い、フランス文化に親しみました。

オリンピック後は従来の柔道交流団の相互派遣や指導者派遣に加えて、姫路城・シャンティイ城を活用した観光プロモーション、2024年のパリ五輪の際にはフランスの柔道代表を応援するイベントの開催など、ホストタウンをきっかけに兵庫県・姫路市とフランスの相互交流が活性化・深化していき、末永い交流の礎になるよう取組を進めていきます。

「民衆の歌」オーケストラ演奏

Q 県民の皆様へ

A フランス柔道選手団を兵庫県・姫路市にお迎えするまたとない機会です。コロナ禍で、選手と県民、市民の皆様は直接触れ合うことはできませんが、事前合宿を通じて、フランスに対する親近感や愛着を持っていただけるような取組を進めて参ります。

五輪金メダリストをはじめ、メダル候補もたくさん来訪されます。コロナ禍ではありますが、新型コロナウイルス感染症対策を万全にしていただき、県民・市民の皆さんで応援していきましょう。

また、令和4年5月には、ワールドマスターズゲームズ2021関西が開催されます。フランスはもちろんのこと、海外から多数の方々が参加されます。県民の皆様も是非とも、選手やボランティアとして参加していただき、スポーツを通じて世界の方々と交流していただきたいです。

姫路レミゼプロジェクト
https://www.city.himeji.lg.jp/kanko/0000013723.html

ホストタウン　情報発信サイト
https://host-town.jp/hosttowns/view/219

サポーターとの交流の様子

プロフィール

姫路市は、兵庫県の南西部、播磨平野のほぼ中央に位置し、古くから交通の要衝として、播磨地方の政治・経済・文化の中心地として栄え、世界遺産・姫路城や書写山円教寺など数多くの歴史的資源をはじめ、市内の各地域に伝わる祭り、地場産業など個性あふれる多彩な地域資源が今も息づいている、播磨の中核都市。

多様だから楽しい。得意を生かして、支えあうコミュニティ

フリーライター　星野（ほしの）　恭子（きょうこ）　さん

「伴走」という活動

約17年前に、「伴走」という活動に出会いました。視覚障害があり、一人で走るのは難しい人の目の代わりとなって安全に導くことが主な役割です。「大好きなスポーツで誰かの役に立てること」にやりがいを感じて一歩を踏み出した私。世界はグンと広がり、豊かになりました。

未知だった「見えない世界」について、その苦労や工夫、研ぎ澄まされた聴覚や触覚などを知っていく体験は学ぶことばかり。二人三脚でおしゃべりしながらのランニングは、苦しいときは励ましあい、ゴールでは二人分の喜びがご褒美。互いに支えあい、高めあえるランニング仲間が増えました。

仲間へのリスペクト

所属する伴走クラブは2005年に創設され、今では登録会員1600人を越える大所帯です。聴覚障害や盲ろう（視覚・聴覚の重複障害）、知的障害などのメンバーも加わり、多彩な仲間との時間は驚きと感動がいっぱいです。

走らない人もいます。伴歩（ばんぽ）者や、「おもてなしが好き」と給水・給食係を担う人、「音楽が得意」と澄んだ歌声や楽器演奏で盛り上げてくれる視覚障害メンバーもいます。英会話や手話サークルも生まれ、今では手話のできる伴走者も増えました。それぞれの得意を活かし、皆がクラブを支えています。

年齢もバックグランドなども異なるメンバーの混ざり合いです。時には意見がぶつかることもありますが、仲間へのリスペクトを忘れず、互いの声に耳を傾けることで、結束を強めてきました。クラブはそれぞれの大切な居場所であり、自分らしく輝けるコミュニティとなっています。

できないをできるに

私は伴走活動をきっかけにパラリンピックにも興味をもちました。障害のあるアスリートが、「失われたものを数えるな。残されたものを最大限にいかせ」という理念のもとに創意工夫を重ねながら、「できないをできるに」変え、自己の限界に挑む世界。競技パートナーはもちろん、コーチやトレーナー、用具開発者などさまざまな人が〝伴走者〟として選手を支え、ともに戦い、喜びを分かち合う世界でもあります。

伴走もパラリンピックも、ベースは信頼と絆でつながれた人間関係。出会えたことに感謝ですし、多くの方に応援いただけたらうれしいです。

プロフィール

会社員、留学、ウェブサイト記者などを経て、2002年よりフリーランスに。2003年、マラソン大会のボランティアをきっかけに視覚障害者の伴走活動を始め、パラスポーツにも興味をもつ。その魅力を伝えたいと2006年頃から取材開始、パラリンピックは2008年北京大会から夏冬6大会を現地で取材。著書に、『伴走者たち～障害のあるランナーをささえる』など。中級障がい者スポーツ指導員。代々木公園・伴走伴歩クラブ（バンバンクラブ）。
http://hoshinokyoko.com

新型コロナワクチン接種に関する差別等の防止について

感染収束に向けて効果が期待される新型コロナワクチンですが、体質や持病などの理由で接種できない人もいます。

また、接種を受けることは強制ではなく、感染症予防の効果と副反応のリスクの双方について理解した上で、自らの意志で接種を受けていただくことになります。

接種していない人に対して、接種の強制や差別、いじめ、職場や学校等における不利益な取扱いを行うことのないよう、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

兵庫県マスコット
はばタン

参考

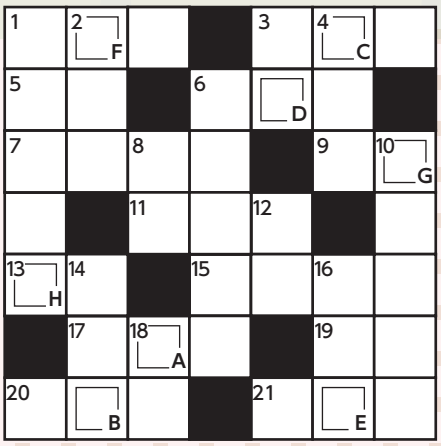
■厚生労働省
新型コロナワクチンについて
厚生労働省　新型コロナワクチンについて　検索

■兵庫県
新型コロナワクチン
兵庫県　新型コロナワクチン　検索

ふれあいサロン

投稿＆クロスワードで
「オリジナルSTOP！コロナ差別 はばタンふせん」
をプレゼント！

問 A～Hの文字を順番に並べると、何という言葉になるでしょう？



タテのカギ

1　新年が始まると百貨店などでたくさん売られます
2　「わたしぶね」のことです
3　来年のことを言うと笑います
4　良かれと思ってしたことが悪い結果に
6　ストラディバリウスなど高価なものもある弦楽器
8　現在よりも前
10　国際オリンピック――　教育――
12　元素記号 P。肥料やマッチ箱に使われます
14　歌を歌う職業
16　他人ではありません
18　回転するものの中心

ヨコのカギ

1　寝るときに敷きます
3　王様の子供。英語ではプリンス
5　「無くて七――」とよく言われます
6　アイスクリームの定番の味
7　物をバラバラにすること。空中――　素因数――
9　兄弟姉妹から生まれた女の子
11　水は 0℃以下になるとこうなります
13　不純物を取り除きます
15　隣にいる人のことです
17　詩を詠む人。吟遊――
19　上司に従います
20　勉強のために通う習い事
21　数字の後につく kg や dL など

5月号の答え
コドモノケンリジョウヤク

読者からのお便り

大変な世の中で、子どもたちの人権をどう守っていくかを、日々考えていかなければならないと感じている今日この頃です。少しでも生活しやすい世の中になるように願うのみです。
（たつの市　シライフミコさん）

今月は「こども」の特集にて、私自身は子どもも孫も成人しておりますが、子どもには大人に対する以上にきめ細やかな愛情をこめて接することが大切だと思います。
未来を背負ってくれる子どもの大きな力や可能性を期待し、幸せにそして大きく羽ばたいてくれるよう願っています。
（神戸市　いこんちゃんさん）

■クロスワードの正解者（抽選で10名）ときずな9月号「読者からのお便り」掲載者に、「オリジナルSTOP！コロナ差別 はばタンふせん」をプレゼント。本誌「きずな」へのご意見やご感想、人々とのふれあいを通した心温まるエピソードなどを募集しています。どしどしご投稿、ご応募ください。
※投稿掲載時はペンネームの使用も可能です。　※当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。

■応募方法・締め切り
はがき、FAX、Eメールで受け付け。クロスワードの答え、郵便番号・住所、名前（ペンネームを使用の場合も要併記）、電話番号、年齢、職業、本誌へのご意見・ご感想を明記の上、ご応募ください。

■応 募 先
〒650−0003　神戸市中央区山本通４丁目22番15号　県立のじぎく会館内
（公財）兵庫県人権啓発協会「きずな」ふれあいサロン係
TEL：078(242)5355　FAX：078(242)5360　Eメール：info@hyogo-jinken.or.jp
＊応募者および投稿者の個人情報は、管理を適切に行い、誌面づくり以外の目的には利用いたしません。

締め切り 7月22日(木)必着

情報ぷらざ
information

ひょうご・ヒューマンフェスティバル 2021 in にしわき を開催

テーマ：「ひろげよう　こころのネットワーク」

会場ホールのみ 手話通訳 要約筆記 磁気ループ あり

8月は「人権文化をすすめる県民運動」推進強調月間です。兵庫県では、市町と一体となって啓発活動を行います。

■日　時：令和3年8月7日(土) 10:15～15:30

■場　所：西脇市市民交流施設「オリナス」(西脇市下戸田 128-1)

「ミニライブ・人権講演会」「それいけ！アンパンマン ショー」申込

●アクセス
【電　　車】JR 加古川線「新西脇駅」より徒歩 15 分
【高速バス】中国ハイウェイバス・大阪～津山線
(運行会社：西日本ジェイアールバス、神姫バス)「西脇営業所」下車すぐ
【自 動 車】中国自動車道「滝野社 IC」より車で 10 分

●出　演（オリナスホール）
午　前
■ミニライブ　AOIさん(西脇市出身のシンガーソングライター)
■人権講演会：副島　淳さん(俳優・タレント)「違いは武器に」
午　後
■ステージショー「それいけ！アンパンマン ショー」
※オリナスホールへの入場は事前申込みが必要です。

●出　展
■障害者スポーツ体験、知的・発達障害擬似体験
■子ども多文化共生イベント
■映画上映「おいしい家族」ほか
その他に、スタンプラリーやパネル展など開催しています。

オリナスホール入場希望者申し込み方法

入場無料　※午前の部　定員580名　　午後の部　定員300名
※応募多数の場合は抽選

■応募期間　6月28日(月)～7月25日(日)(必着)

●インターネットで申し込み
https://www13.webcas.net/form/pub/festival/form

●往復はがきで申し込み
希望参加プログラム「人権講演会」・「それいけ！アンパンマン ショー」、氏名、住所、電話番号(連絡先)、入場人数(4名まで)、「ひょうご・ヒューマンフェスティバル参加希望」を明記の上、下記までご送付ください。
〒650-0003　神戸市中央区山本通4丁目22番15号　県立のじぎく会館内
(公財)兵庫県人権啓発協会　「ひょうご・ヒューマンフェスティバル参加希望」

(問い合わせ先)
(公財)兵庫県人権啓発協会　下記(欄外)までお問い合わせください。
※新型コロナウイルス感染症等の影響により、全体を中止もしくは無観客でライブ中継するなどプログラムを変更する可能性があります。

ひょうご多文化共生総合相談センター

兵庫県では外国人の方が安心して暮らすことができるよう、21言語（英語・中国語・スペイン語・ポルトガル語・韓国語・ベトナム語・タガログ語・インドネシア語・タイ語・ネパール語・マレー語・ミャンマー語・クメール語・フランス語・ドイツ語・イタリア語・ロシア語・モンゴル語・シンハラ語・ヒンディー語・日本語）による生活相談、情報提供を行っています。

詳しくは、ホームページをご参照ください。

生活相談

日時
月曜日～金曜日午前９時～午後５時　電話(078)382-2052
※祝祭日と年末年始は除く。
土曜日、日曜日午前９時～午後５時　電話(078)232-1290
※年末年始は除く。

法律相談

相談日時
月曜日　午後１時～午後２時、午後２時～午後３時
※相談には予約が必要です。

入管相談

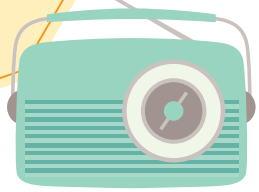
相談日時
毎月１回、第3木曜日　午後１時30分～午後２時30分、午後２時30分～午後３時30分、午後３時30分～午後４時30分
※相談には予約が必要です。

ひょうご多文化共生総合相談センター　検索
https://www.hyogo-ip.or.jp/shisetsuannai/infocenter/index.html

問い合わせ先
平　日
外国人県民インフォメーションセンター
電話　(078)382-2052　FAX　(078)382-2012
土・日
NGO 神戸外国人救援ネット
電話　(078)232-1290　FAX　(078)271-3270

HALF TIME

ラジオ関西
「谷五郎の笑って暮らそう」
(毎週火曜日10:00～13:00)で、12:30頃から「きずな」の記事等を紹介しています。



延期されていた2020東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。様々な国の選手が来日されます。この大会を通して、多文化共生について考えることができたらと思います。

本紙の編集は令和3年5月末に行ったものです。

「きずな」は、協会ホームページからもご覧になれます。
兵庫県人権啓発協会　検索

(公財)兵庫県人権啓発協会　〒650-0003　神戸市中央区山本通4-22-15　県立のじぎく会館内
TEL 078(242)5355　FAX 078(242)5360　info@hyogo-jinken.or.jp

2021(令和3)年7月発行